

## 4章

### 問題

【1】

A.

全訳

私が思い出すのは、ある事が理論上は事実だとしても、実際には修正を要する、という通俗な言葉を私が使ったことに対し、父が激怒し、私に理論という単語を定義させようとし、結局徒労に終わった後で、父がその意味を説明し、私の使った通俗的な言い回しの誤りを示し、理論という単語を正確に定義できなかったという点と、理論が実際とは矛盾するものかもしれないと話した点で、自分が前代未聞の愚かしさを露呈してしまったということを十分に納得せざるを得なかったということである。この点で、父はずいぶんと不条理のように思えるし、おそらく実際そうであったのだろうが、思うに、それは私の過ちに腹を立てたという点においてのみであろう。己の手に余ることを何一つとして要求されないような生徒は、できることさえ一切しないものである（から）。

B.

全訳

確かに、たとえ職業が何であろうと成功には競争の要素があるが、同時にまた尊敬を受けるのはただ成功したという事実ではなく、成功の原因となった優秀さ（それがどのようなものであろうとも）なのである。科学者は金を儲けることも儲けないこともあるだろう。が、金を儲けた場合のほうが儲けない場合よりももっと尊敬されるということは絶対がない。有名な学者や詩人が貧しいことを知って驚く者はいない。いやそれどころか、このような場合には貧しいこと自体が、ある意味では名誉なことなのである。

C.

全訳

①イギリス人の精神と性格、あるいは生活様式において、詩を生み出すのにこれほど有利であるものとは何であろうか。②イギリス人はたいいていの民族よりも、その長所のためばかりでなく欠点のため、詩の生まれる源泉に近いということが、確かに、その答えであるに違いない。もしイギリス人の家がその居城であるとすれば、その精神もほとんど非社会的とまで思われるくらいにその居城なのである。イギリス人は、隣人の知的・感情的プライバシーを尊重することに慣れているので、自己に対しても同じような寛容を期待する。③もっと社会的な国民は、その思想を共用の貯水池につき込むが、イギリス人は自己専用の井戸から、自分の私的な利用のために、骨折って自分の考えを汲み上げ続けるのである。

## 【2】

### 解答例

#### 《解答例1》

AはBの著作の書評を行ったが、Bはそれに対する抗議を書面で申し込んだ。Aは自身の偏見を認めながらも、Bの著作が嫌いでないこと、書評を軽々しく扱ってはいないことを主張して、Bの誤解を解こうとしている。(98字)

#### 《解答例2》

AはBの著作の書評を行ったが、Bはそれに対する抗議を書面で申し込んだ。AはBの著作が嫌いなわけではなく、また、Bに不公平呼ばわりされて傷ついていることを伝えてBの誤解を解こうとしている。(93字)

#### 《解答例3》

AはBの著作の書評を行ったが、Bはそれに対する抗議を書面で申し込んだ。Aはもし自分が書評を軽々しく扱っているように見えるならば、それは自分の不適切な文章の責任であると言ってBの誤解を解こうとしている。(100字)

### 解説

#### 指針

事情：

AはBの著作の書評を行ったが、Bはそれに対する抗議をAに書面で申し込んだ。

Aの弁解：

- 1) 私はBの著作が嫌いなわけではない。
- 2) 不公平呼ばわりされて心外だ。
- 3) 私が偏見の持ち主であることは認める〔→偏見のない人間などいない〕。
- 4) 私は書評を軽々しく扱っていない。
- 5) 軽々しく扱っているように見える責任は私の文章表現の拙さにある。

↓

趣旨：Bの誤解を解くこと〔怒りをなだめること〕。

↓

上記の「事情」と「趣旨」を要約答案の「骨子」とし、制限字数を満たすために「Aの弁解」の内容を付け加える。「骨子」の部分さえ含まれていれば、あとは1)～5)のどれを選んでもかまわない。

↓

「1；3；4」を用いる→《解答例1》

「1；2」を用いる→《解答例2》

「5」を用いる→《解答例3》

### 全訳

私はあなたに即座に返事を書かねばなりません。それはこれ以上ないほどに爽やかな晴天の午前に舞い込んできております。私は手紙によってではなく、あなたがこのテラスにいて、私が決して嫌悪などしていないあなたの著作について話をさせてくれればいいのに、と思います。どんな印象を伝えるべきか、私の頭を悩ませるのは、思うがままに筆を走らせる

—— すなわち言いたいことを言い尽くすのに足るだけの余地が書評にはないということ  
 です。これは本当に言い訳ではありません。しかし不公平呼ばわりされること —— それはひ  
 どく私を傷付けます。そしてそういうことによって、あなたは私が持っていてしかるべき程  
 度の正直ささえ、持ち合わせていないと言っているように思われます。私は偏見を持ってい  
 ます。それは認めますが、我々はだれしも多かれ少なかれ偏見を持っていると思います。し  
 かし誓って言いますが、私は書評することを軽々しく扱ってはおりません。そしてもし私が  
 そのように見えるとすれば、それは私の不適切な書き方のせいなのです。

**注**

- ℓ. 1 ◇ heavenly *adj.* = very pleasing 「天 (= heaven) にも届かんばかりの」  
 cf. heavenly body 「天体」  
 ◇ fair *adj.* = fine and dry ; clear ; beautiful
- ℓ. 2 ◇ I wish (instead of writing) you were here on the terrace and you'd let me ...  
 which I far from detested.  
 ○ wish + 仮定法過去  
 ○ far from = not at all  
 ○ detest *vt.* = dislike very much; hate
- ℓ. 3 ◇ What an impression to convey!  
 後続の my trouble を具体的に説明する言葉として解釈した：筆者が書評を行なう  
 際に常に頭を過ぎる言葉。
- ℓ. 4 ◇ to get going 「進行を得る」《直訳》  
 辞書の記述を用いれば, “get going = begin going”であるが, 文脈にうまく当て  
 はまらないので, 後続の to say...と同格と考えて適当な訳語を見繕い, fully はこ  
 れらの同格語句の双方を装飾すると解釈した。
- ℓ. 6 ◇ might *aux.* 《仮定法：婉曲》「～し得ように」  
 ○ expressing complaint that an exception is not fulfilled (期待が満たされない不満  
 を表明する)  
 cf. He *might* offer to help. (彼は援助を申し出てくれてもよさそうなものなのに。)  
 ◇ prejudiced *adj.* < pre- (= before) + judgment 「前もっての判断」  
 ◇ well: expressing acceptance of a foregoing remark (前述の言葉の容認を表明して)  
 ◇ all of us : we の同格語句
- ℓ. 7 ◇ cross my heart: used to emphasize the honesty of what one says (胸に十字を切る)
- ℓ. 8 ◇ unfortunate *adj.* = unsuitable or regrettable

**【3】**

**ポイント**

冷戦期は、社会主義思想を排除する目的で、C I Aが秘密裏に科学的な見地に基づく拷問  
 技術を確立した時期でもあった。単に身体的に罰を与えるだけでなく、「白紙状態」から新  
 たな思想を植えつけるのだ。ショック状態に陥った人々を従わせ、一気呵成に新体制を形成  
 するという点で、フリードマンが求める大改革は、拷問と同様の関係にあることを読み解く。



Americans had never been strong in our knowledge of history, ~ .

◇ North Americans had become a blank slate

S V C

○ — 以下は、a blank slate の言い換え。

○ 言い換え部分の修飾関係を基底文に還元すると、

Mao said of his people as “a clean sheet of paper” on which “the newest and most beautiful words can be written.” となる。

(6) ◇ With everyone preoccupied by the deadly new culture wars,

付帯状況の with O C

the Bush administration was able to pull off

S V

what it could only have dreamed of doing before 9/11

O

○ O の部分を基底文に還元すると

It (= the Bush administration) could only have dreamed of doing [what] before 9/11 となる。

**全訳** .....

チリから中国、そしてイラクに至るまで、拷問はグローバルな自由市場の推進におけるひそかなパートナーであった。しかし拷問は望まれぬ政策を反抗的な各国国民に押しつけるために使われた道具以上のものである。ショック理論の根底にある論理の象徴でもあるのだ。

拷問、CIA の用語で言うところの「強制尋問」は拘束された者を彼らの意思に反して譲歩を強いるために、深い心理的混乱とショック状態に置くために考案された一連の手法のことである。1990年代後半に機密扱いが解除となったCIAの手引書2冊に指針となる論理が詳しく述べられている。それらの本には、「抵抗する情報源」を言いなりにさせるには、彼らと彼らの周囲の世界を感知認識する能力を暴力的に断絶させることと説明されている。まず、五感に対していかなる入力情報もないようにすること（頭巾をかぶせる、耳栓をする、手足に<sup>かせ</sup>枷をはめる、完全孤立状態にするなど）。次いで、身体に対し不可抗力な刺激を浴びせかけるようにするのだ（ストロボライト、大音量の音楽、殴打、電気ショックなど）。

この「弱体化」段階の目指すところは、精神に一種のハリケーンを巻き起こすことである。拘束された者は極度の退行と恐怖に追い込まれるので、合理的に思考したり、自己の利益を守ることがもはやできなくなってしまう。まさにこのショック状態にあるときに、大半の拘束された者は尋問者に望みの物を、情報であっても、自白でも、それまでの信念の放棄でも何なりと与えてしまうのだ。あるCIAの手引書は特に明確にこう説明する。「ほんのわずかな間かもしれないが、心理的ショックまたは麻痺状態とでも言える仮死状態に陥る瞬間が来る。それは対象者が慣れ親しんだ世界や、対象者のその世界内での自己イメージがいわば破壊されてしまうトラウマ体験もしくはそれに準ずる体験によって引き起こされる。③経験を

積んだ尋問者は、この効果が現れる時を見逃さず、この瞬間に情報源は、ショックを体験する前に比べて、はるかに暗示にかかりやすく、命令に対して従いやすくなっていることを承知している。

ショック理論はこの過程を正確に模倣する。取り調べ室内で対面で拷問が成し遂げられることを大規模に達成しようというものだ。一番わかりやすい例は9.11のショックだ。何百万人の人々にとって、「慣れ親しんだ世界」が吹っ飛ばされ、ブッシュ政権が巧妙につけ入った、深い混迷と退行の時期がもたらされたのだ。突然に我々は、それまで世界に関して我々が知っていたすべてのことが、もはや「9.11以前の考え方」として切り捨てられる、新紀元ゼロ年のような時に生きていることを悟ったのだ。⑤歴史についてあまり詳しくなかったので、北米人は白紙状態になってしまった。つまり、毛沢東が人民を指して言った「一番新しく一番美しい文字が書き込めるまっさらな一枚の紙」に。即座に新たな大勢の専門家らが現れ、我々のトラウマ後の意識につけこみ新しく美しい言葉を無防備になっているキャンパスに書き込んだ。いわく「文明の衝突」、「悪の枢軸」「イスラム・ファシズム」「国土安全保障」などの言葉だ。⑥誰もが全く新しい文化の戦争に心奪われた状態で、ブッシュ政権は9.11以前ではそうすることを夢見ることしかできなかったことを、うまくやり遂げることができるようになった。国外においては民間化された戦争を遂行し、国内においてはセキュリティー企業複合体を作り上げたのだ。

#### 【4】

A.

#### 解答・解説

(1) The richest person in the world cannot buy my love.

最上級には「～でさえも」と譲歩の意味が加わる場合がある。

(2) My boyfriend is older than I (am) by two and a half years.

本問は、My boyfriend is two and a half years older than I am. で書き換えられる。

○ by ～「～の分だけ」by を用いるのは若干複雑な場合。

(3) It is far better to know too little than to know too much.

与えられた語 It に従い、形式主語 it を用いて英文を始める。

(4) I hear that India is the first country that [to have] produced power from solar cells more cheaply than by burning diesel.

○ I hear that S V 「S V だそうだ」

(5) I am as anxious as you are to get into business on the Internet.

as you are to get ～ とあるが、‘予定・義務・可能・運命・意図’などを表すいわゆる be to do ではないことに注意。

○ be anxious to do 「…したがっている」

(6) You're the last person I expected to see here.

直訳では「ここで会うことを期待できる最後の人」となる。

(7) There is yet more research necessary to make the findings conclusive.

比較を強調する副詞 yet を用いる。

- (8) The president became more and more eloquent toward the end of her speech.  
more and more ～で「次第に〔ますます〕～」という意味。  
○ eloquent 「雄弁な」
- (9) Sad to say, the prime minister of the country never stood in the shoes of ordinary people, much less (in the shoes of) the weak.  
○ 否定文, much [still] less ～ 「ましてなおさら～ではない」
- (10) You should know better than to email your friends on your phone during the lesson [class].  
○ know better than to *do* 「…するほどばかではない」

B.

**解答・解説**

- (1) I couldn't ask [have asked] for a better chance.  
直訳は、「これ以上よりよいチャンスを求めることはできないだろう。」となる。
- (2) Males are not as likely as females to feel guilty after a drinking binge.  
not as ～ as …を利用する。  
○ binge 「(酒の入った) どんちゃん騒ぎ」
- (3) My father's car had no oil filter, but the engine lasted just as long.  
the engine lasted just as long (as that with oil filter) などと考える。
- (4) Most people think that science is remote from the lives they lead every day, but nothing could be further from the truth.  
○ Nothing could be further from the truth. 「これほど真実からかけ離れたものはない。」
- (5) When I heard the way he spoke, I realized that he was not less intelligent than I had expected.  
○ ～ than S had expected 「Sが思っていたより～」
- (6) I feel no more sorry for those who get taken in by confidence men than I do for those who pay a lot of money to fortune tellers to bring back those they have lost.  
○ no more A than B 「(～は) Bと同様Aでない」  
○ be [get] taken in 「だまされる」

**【5】**

**解答**

- (1) **h**            (2) **e**            (3) **i**            (4) **j**  
(5) **b**            (6) **f**            (7) **a**            (8) **g**

**解説**

- (1) **h**  
「時間がわずかしかない。だから持てる時間を最大限に利用しなければならない。」  
○ make the most of ～ 「～を最大限に活かす」
- (2) **e**  
「誰も使うようなばかなまねはしない、下品な表現がいくつかある。」

- vulgar 「下品な」
- know better than to 不定詞 「…するようばかなことはしない」  
原義は「…するよりも物がわかっている」ということ。  
Ex. You should know better than to trust him.

(君は彼を信用するような愚は犯さないほうがいい。)

(3) i

「私は彼と話をしたことさえない。まして彼とあなたの抱える問題を話し合ったことなどない。」

- 否定文, much [still] less … 「～しない。まして…しない」
- 比較級を含む否定表現。

Ex. No explanation was offered, still less an apology.

(説明の申し出はなかった。まして謝罪などなかった。)

(4) j

「宗教に聖職者が必要でないのは、愛国心に政治家が必要でないのと同じだ。」

- A is no more B than C is D. 「AがBでないのは、CがDでないのと同じ」

(5) b

「文明国では最もありふれた労働者でさえ、未来の事を現在との関連で考えている。」

- 最上級の形容詞の用法に「～さえも」という意味を含む場合がある。

Ex. The wisest man sometimes makes mistakes.

(どんなに賢い人でも間違いをすることがある。)

※「最も賢い人は間違える」ではないので注意。

(6) f

「その市場をリードしている会社は12種類ものビールを醸造している。」

- 'no fewer than 数' は、数が多いことを強調する表現。

Ex. No fewer than 13 foreign ministers attended the session.

(13人もの外務大臣が会合に出席した。)

- 'no less than 数' でも同意だが、(3) で優先される。

(7) a

「私は算数ではジェーンに劣るが、歴史では勝っている。」

- 逆接の but より前だから、反対の「劣っている」になるはず。
- be good [better] at ~ 「～がうまい」

cf. be bad [worse] at ~ 「～が下手である」

(8) g

「心の楽しみは、しばしば、体の楽しみより優れているとみなされていた。」

- A is superior to B = A is better than B
- この型の比較をするのは、be superior [inferior ; senior ; junior] to ~ 「～より優れている [劣っている ; 年上である ; 年下である]」で、「ラテン比較級」と呼ばれる。



## 【6】

### 解答・解説

(1) less

less + 原級 + than : 劣等比較

= not as [so] + 原級 + as

「この本はあの本よりも便利でない。」

(2) more [rather], than

not so much A as B = more B than A = rather B than A ; B rather than A (AよりもむしろB)

「彼は先生というよりも学者であった。」

(3) the less, two

2者の内での比較なので比較級の前に the が付く。

less old = younger 《劣等比較》

「メアリーは彼より若い。」 = 「2人の中で、メアリーの方が若い。」

(4) no more than

no more than ~ = only ~ (～しか)

「千円しか持っていない。」

(5) as many as

as many as ~ = no less than ~ (～も)

「昨夜のコンサートには 5,000 人もの人々がいた。」

(6) at least

at least = not less than (少なくとも)

「彼女は少なくとも 1 万円は持っている。」

## 【7】

### 解答・解説

(1) No *other* bird is stronger than an eagle.

「鷲ほど強い鳥はいない。」

(2) Iron is more useful than *all* the other metals.

= Iron is more useful than any other metal.

「鉄ほど便利な金属はない。」

(3) I have *never* seen so interesting a movie as this.

「これは今まで見た中で最も面白い映画だ。」

ever (最上級・比較級の強調「かつて；今までに」) ⇔ never (一度も…ない) の変換に注意する。'so + 形容詞 + a + 名詞' の語順にも注意。

## 5章

### 問題

#### 【1】

A.

#### 全訳

火は人間の発明したものではないが、火の支配は人間が考え出したことである。そして、これは初期の祖先の最も重要で想像力に富んだ活動の1つであった。我々の祖先は火を自然の中に発見した。ひょっとすると雷の一撃が乾いた木に落ちた後かもしれない。そして祖先は燃えさかる枝で動物や敵を脅したに違いない。おそらくは、やけどをして恐れが心に残ったに違いない。きっと彼は自分の種族をも脅しただろう。種族の人々は彼を追放さえしたかもしれない。しかし、このようにして人間は火を支配しはじめ、人の想像力には文字通り炎がともされた。人間は創造的な人間への道、つまりは文明への道を歩み出したのだ。

B.

#### 全訳

私は学生時代にできるだけ多くの本を読んでおくべきでした。今は仕事に追われて読書にあまり時間がさけません。学校を卒業してやっと本は心の糧であることがわかりました。有益な書物を選ぶに当たっては、いくら注意してもし過ぎるということはありません。

C.

#### 解答

(1) 「全訳」の下線部①～③参照。

(2) in

(3) b

#### 解説

(1)

①○ it is ~ that ... で ' ~ ' の部分を強調する強調構文。

= Certainly there is room and need for progress not only in fields of physical science

○ 文末に 'but also in social fields' の意が暗示されている。

○ not only A but (also) B 「AだけではなくBも」

○ physical 「①身体の；肉体の ②物理学の；自然科学の ③物質の」

○ room と need の両方が for にかかることに注意する。

○ room：ここでは「余地」の意を表す。

②○ in social fields 「社会の分野において」が主語に先行した形。

○ if anything 「①どちらかといえば ②もしあるとしても」

○ more room and need,  $\left\{ \begin{array}{l} \text{not only for A} \\ \text{but also for B} \end{array} \right.$

「AだけでなくBに対するより多くの余地と必要」《直訳》

- A = progress in the known branches of knowledge  
「すでに知られている知識の分野における進歩」
- B = new sciences

③○ This need = need (not only for progress in the known branches of knowledge, but also) for new sciences in social fields

○ could hardly be exaggerated: cannot ~ too …「いくら～してもしすぎることはない」に類した表現で, too の代わりに「過度に…する」の意を含む動詞を用いた例。

○ could : 仮定法。can よりも婉曲な表現

○ exaggerate [ɪgzædʒə'reɪt] 「～を誇張する」

(2) result in ~ 「～に帰着する；～という結果になる」

(3) dawn [dɔ:n] 「夜が明ける；始まる」

a [dɔ:n]   b [ɔ:t]   c [kɔ:u]   d [drɔ:n]

#### 全訳

①確かに、進歩の余地と必要があるのは、自然科学の分野だけではない。②社会科学の分野においても、既知の部門の知識における進歩だけではなく、新しい科学の、どちらかといえばもっと大きな余地と必要がある。③この必要「社会科学の分野における、既知の部門の知識における進歩のみならず新しい科学の必要」はいくら強調してもしすぎることはないくらいである。ほかならぬ自然科学の進歩そのものが、これは原子爆弾の製造をもたらしたのであるが、次のような社会的問題に我々を直面させることになった。我々は国際関係を平和的に調整する方法を見いださなければならない。さもなければ、文明とおそらくはそれとともに全人類を滅ぼしてしまうことになるかもしれない。

他方において、同様に明らかなことであるが、もし世界戦争が防止されうるならば、そして、あらゆる新しい可能性が平和的な進歩のために用いられるならば、おそらくきっと新しい時代が始まることになるだろう。しかし、そのような可能性を利用するためには、まず我々の社会的問題が解決されなければならない。

## 【2】

### ポイント

東大の長文総合問題の英文は決して読みにくいものではなく、また設問も奇問と言えるものはない。しかし、客観テストを主体とした設問はかなりよく練られている。話の流れを正しくつかみ、さらに行間を読み取る読解力が要求される。

### 解答

- (1) d   (2) d   (3) b   (4) 「全訳」の下線部参照。   (5) b  
(6) d   (7) Barney   (8) d   (9) a   (10) d

### 解説

(1) 空所の後が sounded like ～ と続くことに注意。sound には「～を(吹き)鳴らす」の意の他動詞用法があるが、この場合は楽器などの音を出すものを目的語にとるので、ここには当てはまらない。この sounded は過去分詞ではなく、自動詞 sound の過去形であ

る。したがって、空所には前置詞 *by* の目的語になると同時に、*sounded like ~* の主語になるものが必要ということになる。よって、関係代名詞 *what* が入るのが適当である。*what sounded like a sledgehammer* (*a sledgehammer* のように聞こえたもの) というのは具体的には想像するしかないが、おそらく *Barney* が机をバンとたたいたのであろう。なお *sledgehammer* という単語は知らなくても、綴りと文脈から、ハンマーの一種と見当をつけなければならない。

- (2) 選択肢を順に見ていこう。a「彼は時事問題に詳しい。」*be (well) up on ~* で *know a lot about ~* の意。b「時間がきました。」この *up* は「尽きて；終わって」の意。c「向こうでは何が起きているんだ？」*up* は「(問題などが) 起こって」の意。d「彼女は起きているけど、まだ下に降りて来ない。」この *up* は *awake* の意。本文の *up* は *awake* の意なので、d が正解。
- (3) *gain control of ~* で「~を支配〔統御〕する」の意。本問では、睡眠不足でうとうとうとしていたところを突然起こされたためにぼうっとしていたバートンが、すっかり目を覚まして、自分の能力や技術を十分駆使できる状態になったという意味になる。
- (4) ◇ Maybe if you d taken the trouble to interview Adler last night, you'd have seen {what I saw}.
- 仮定法過去完了の英文である。
  - *take the trouble to ...* 「労をいとわず…する；…するよう尽力する」
  - *interview ~* : ここでは精神科の医者が患者に悩みや病などについていろいろ質問する意味で使われていることが文脈からわかる。つまり「~を問診する」ということ。
  - *Adler* : 文脈から、昨夜 *Barney* が診察した患者で、入院させないで帰してしまったために命を失ってしまった人物の名前だとわかる。
  - *what I saw* 「私が見たもの」つまり、患者の症状を指す。
- (5) *Barney bellowed* (バーニーは怒鳴った) に注意。相手が 'Am I right?' (俺の言う通りだろう?) と念を押したのに対して、反発して *No, (you're not right)* と言い返したのである。
- (6) *fly off the handle* は「かっとなる」という意味のイディオムで、d が正解。これまでの箇所では *Barney* が *Barton* に対して怒りを爆発させていることに注意。ここはそのことに対して、*Barney* が *Barton* に謝っているところである。a「危険を犯した」、b「厳粛に振る舞った」、c「悲しくなった」では文脈に合わない。
- (7) *Barton finished his thought.* は直訳すれば「バートンは彼の考えをしめくくった。」だが、要するにバーニーが "This is the first time I ——" と言って言葉を詰まらせたところに "Lost a patient?" と続けて、言葉を補ってやったことを言ったものである。すなわち *his* とは *Barney* のことである。
- (8) *on the ball* は「機敏な；有能な」の意を表すイディオムで、*efficient, alert* と同意。*efficient* には「能率的な；効率がよい」の意だけでなく、「有能な」の意があることを確認しておこう。
- (9) 直訳すれば「もし慰めとなるとすれば」だが、日本語としては「もし慰めとなるとすれば (教えてやるが)」などと補わないと主節とつながらない。ただし教えた内容は「(今

が最悪と思うかもしれないが) どんどんひどくなるのが実情だよ」ということなので、if it's any consolation には「慰めなんかにはならないと思うけど」という逆のニュアンスがこめられている。

(10) after that は after they qualify ということ。keep track of ~ は「~を見失わないようにする；ずっと~の情報を得る」などの意。ここでは of 以下は文脈から明らかなので省略されているが、それは医者が患者を死なせてしまう件数のことである。つまり、医者になれば医学生の頃とは比べものにならないほど多くの患者を診なければならないから、それに比例して死なせてしまう患者の数も多くなってしまふのである。その死亡件数が多すぎて記録もとられていないわけである。前の“… it actually gets worse each time you do.” “You mean you've lost a lot of patients?” などのやり取りをしっかりと追って考えることも大切。

#### 全訳

何とか貴重な睡眠を少しでもとろうとして、イヴァン・バートン医師はナース・ステーションの机で、あごひげをはやした顔に頬杖をついてうとうととしていた。すると突然、耳のすぐそばで大つちをたたかれたような音がして目を覚ました。はっとして顔を上げると、汚れた白衣を着た見慣れない人物が目に入った。

「あなたがバートン先生ですか？」乱れたかっこうの若い医師が大声で聞いた。

この36時間一睡もしていなかったので、精神科のレジデントであるバートンは少し混乱して、ぼうっとなった頭で答えた。「何でしょうか？」

バーニーはミラー紙をつきつけて、いらだちながらこう言った。「この新聞を見てくれ。ここに出ているのは昨夜私の言うことをあなたが本気にせず入院させなかった人物だよ。」

「おいおい、落ち着いてくれよ、なあ」少し年長のバートンは、いつもの能力と診察技術を取り戻して(と自分では思って)答えた。「君はここでは新米なんだろう？」

「だからどうだって言うんだ。④たぶん昨夜あなたが労を惜しまずにアドラーを問診してくれていたなら、私の見た症状にあなたは気づいただろう。彼は切羽詰まっていたんだ。」

「ちょっと待てよ。君の方もそれほど確信があったわけじゃなかったろう。確信があったんなら、もう一押ししたはずだ。そうだろう？」

「そんなことはない」とバーニーは怒鳴ったが、すぐに考えこんだ。おそらく私のせいだ。あの気の毒な患者が死んだのは私のせいだ。

「なんならもっと話してみるかい？」とバートンは案じるように聞いた。

バーニーは首を振って腰をおろした。「かっとなってすみません。こんなことは初めてなんです…」

「患者を死なせてしまったことかい？」とバートンが言い足した。

バーニーはうなずいて言った。「辛いんです。もし私が有能だったら、あの気の毒な人を救ってやれたのに。」それから顔を上げて、聞いた。「あなたは患者を死なせたことがありますか？」

「あるよ」バートンは打ち明けた。「これは慰めにはならないだろうが、死なせるたびにどんどんひどくなるものだよ。」

「たくさんの患者を死なせたということですか？」バーニーは驚いて聞いた。

「いいかい新米先生、医学生が資格を得るまでに平均3人の患者を『殺す』という統計が

あるんだよ。さらにその後の記録をとる者は1人もいないんだよ。」

**注**

- ℓ. 1 ◇ steal ~ *vt.* 「～(＝うたた寝など)を(気づかれないように)する」
- ℓ. 3 ◇ sledgehammer *n.* 「大つち；ハンマー」  
◇ start *n.* 「(驚いて)はっとすること」
- ℓ. 4 ◇ soiled *adj.* 「汚れた」
- ℓ. 5 ◇ growl ~ *vt.* 「～と怒鳴って言う」  
◇ unkempt *adj.* 「(服装などが)乱れた」
- ℓ. 6 ◇ psychiatric *adj.* 「精神医学の」  
◇ be disoriented 「方向感覚を失う；まごつく；混乱する」
- ℓ. 7 ◇ fuzzily *adv.* 「ぼんやりと」
- ℓ. 8 ◇ fume ~ *vt.* 「いらだって～と言う」
- ℓ. 10 ◇ old buddy : 男性に対する呼びかけの言葉。
- ℓ. 12 ◇ the hell 「一体全体」強意を表し、疑問詞の直後に置かれる。
- ℓ. 14 ◇ that *adv.* 「それほど；そんなに」口語的な表現。  
◇ lean on ~ 「～に圧力をかける」
- ℓ. 18 ◇ solicitously *adv.* 「案じるように」
- ℓ. 27 ◇ med (= medical) *adj.* 「医学の」

**【3】**

**ポイント**

第3段落以降にまとめられた、行き過ぎた資本主義に対する、筆者の反論をおさえること。私たちが生きる現代社会は、ニューディール以降に世界に定着した、ケインズの混合経済（修正資本主義）が基盤になっている。フリードマンが希求した自由主義経済とは、同じ資本主義ながら、政府が経済に介入し、公的経済部門の比重が高い点で異なる。しかし今なお自由主義経済的なアプローチは政治経済の諸問題で議論されることが多い。

**解答**

- (1) 「全訳」の下線部①参照。
- (2) **ア** 他の思想体系と共存      **イ** 多様性      **ウ** 現実〔状〕の世界
- (3) **c**
- (4) **c**
- (5) フリードマンらの考え方は、何らかの大変動によってしか到達できない、まったくの白紙というあり得ない状態が作られることが前提となるので、彼らにとっては大惨事が実際に起きないことは好ましくないということ。

**解説**

- (1)
  - ◇主語 attempt にかかる any は「種類の非限定」として「いかなる～も」
  - attempt to ~ 「～しようとする試み」
  - ◇ hold A B 「A = Bと考える；判断する；断ずる」

◇ accountable for ~ 「~の(説明)責任がある」(responsible よりも強い責任)

◇ with caution 「用心して」

(2) 下線部②を含む文の次の文から段落の最後までは、実質的に certain ideologies の具体的な説明である。この部分をまとめる。

(3) ③-a : as such 「そういうものとして」

③-b : make way for ~ 「~に道を開ける；譲る」

③-c : treat A as B 「A を B として扱う」

③-d : the fight for ~ 「~のための闘い」 ⇔ the fight against ~

(4) 該当段落の論旨を端的にまとめた選択肢を選ぶ。「市場」はすべて市場のメカニズムだけに任せるのではなく、適切な政府からの規制や公的制度での調節も必要だ、と言っているのだから、c を選ぶ。

a 「我々は、競合し合う経済体制同士を支配権を巡る戦いの場に落とし込む、ある種の冷戦の瀬戸際に立たされているのだろうか。」

b 「得られるお金は大金だ。」

d 「こういった傾向はアメリカの競争力と自由市場資本主義の未来を脅かしている。」

e 「これはフランシス・フクヤマの言葉を借りれば、『歴史の終わり』つまり『人類のイデオロギーの進化の最終点』である。」

(5) 市場原理主義者にとって公的な制度や、政府の規制や介入は、市場の自律性を阻害するものであるが、そういう彼らにとっての障害物を一掃し、社会分野のあらゆる部分に私企業を関わらせるようにするには、国民が平常心を失い、国家の適切な統治機能がマヒしてしまうような大災害などの発生時が好機である。大惨事が起きてくれないと彼らの野望は成し遂げることができないことをまとめる。

**全訳** .....

①あるイデオロギーを信奉する者によって犯された犯罪の責任は、それらイデオロギーにあると考えるいかなる試みも、相当な注意を持って扱われなければならない。私たちが賛同できない相手が、単に間違っているばかりでなく、専制的で、ファシズム支持者で、大量虐殺をするものであると主張するのはあまりにも容易だ。しかし、ある種のイデオロギーは一般人にとって危険で、そのように(危険だと)認められる必要もある。こういうイデオロギーは他の思考体系とは共存できないほど閉鎖的で、原理主義的理論である。これを信奉する者は多様性を非難し、自分たちの完璧な体系を実行に移す絶対の自由裁量を要求する。彼らの信じる純粋な世界に道を開くために、現実世界は消されねばならないのだ。その原点は大洪水や大火事という聖書に描かれた幻想にあり、暴力へと必然的に向かう論理である。何らかの大変動によってしか到達できない、まったくの白紙というあり得ない状態を希求するイデオロギーは、危険なイデオロギーだ。

では、世界の市場を自由化するという現代のこの改革運動はどうなのだろうか。私企業寄りの体制を作り、維持するための、クーデターや戦争や虐殺行為は、一度も資本主義の犯罪として扱われたことはなく、熱心すぎる独裁者たちの行き過ぎた行為か、冷戦、今であればテロとの戦いの白熱する前線の行動としてみなされてきた。1970年代のアルゼンチン、あるいは今日のイラクで、企業中心経済モデルに最も強く反対する者たちが組織的に排除され

たとしても、そういった弾圧は、共産主義やテロリズムに対抗するための醜い戦いの一部として説明されてしまう。純粋な資本主義を推し進めるための戦いと説明されることはほぼ皆無である。

私は何も、すべての市場経済体制が本質的に暴力的だと言っているのではない。そのような暴力を必要としない、そのような思想的純粋性を求めない市場原理に基づいた経済体制を持つことだって、十二分に可能なのだ。消費財を売り買いする自由市場は無料の公的医療制度とも、公立学校とも、公営の石油会社のように国家の手にゆだねられた大きな経済の分野とも、共存できるのだ。また、同様に企業に相応の賃金を支払うことを求め、労働者が組合を組織する権利を尊重することも、企業優先国家の特徴となる極端な不平等を減らすため、政府が税を課し、富を再分配することも可能なことなのだ。市場は原理主義的でなくとも成立する。

ケインズは、大恐慌の後で、まさにそのような混合・管理型の規制経済を提唱した。この公共政策における革命はニューディール政策を生み出し、世界中でのそれに類する転換が進められた。その折衷的な、抑制と均衡のシステムこそフリードマンの反革命的政策が次から次へと色々な国で組織的に解体しようとした事だった。こういった見地からすると、シカゴ学派系の資本主義は、明らかにほかの危険なイデオロギーとの共通点が見て取れる。つまり達成不可能な純粋性、言い換えれば再設計された理想社会を築くための白紙状態を求めてしまうという特徴的な要求のことである。

全てを創造するという神にも似た力を求めてしまうところが、まさに自由市場主義者たちが危機的状況や大災害に惹かれてしまう理由だ。黙示録で描かれたような終末的危機がない現実社会は全く彼らの野望を受け入れてくれないのだ。35年にわたってフリードマンの反革命運動を突き動かしていたのは、大災害の時のみ手に入るある種の自由と可能性への誘引力だった。大災害時には、頑固な習慣としつこい要求を持つ人間は行く手から一掃され、民主主義が実際にはまったくの不可能事に思われてしまうからだ。

#### 【4】

解答

A.

- (1) T      (2) F      (3) T      (4) F      (5) T  
(6) F      (7) T      (8) T      (9) F      (10) F

B.

I. Determining the exact height of Everest is not easy.

- In the 19th century, the mountain's height was measured at 29,002 feet.
- In the early 1950s the mountain's height was measured at 29,028 feet.
- Measurements were taken in the winter so that there would be less snow on the summit.

II. Scientists studying geological changes hope for more precise/accurate/exact measurements.



- They hope for measurements that can detect movement within their own lifetimes.

III. Bilham and Washburn are making precise observations related to earthquakes that hit Nepal and northern India.

- Washburn made laser observations of prisms on the summit of Everest from 18 miles away.
- In September 1992 readings were taken at the summit with a Global Positioning System receiver.
- The laser and GPS readings almost exactly agreed with Gulatee's measurement of 1954.

IV. To gather more accurate data, Washburn and Bilham wanted to set up two GPS stations high in Everest bedrock.

- One was installed near one of the base camps in 1995.
- Another needed to be installed only 100 yards from Everest's snow summit.

V. Bilham and his students established a GPS receiver network of 31 stations around the Himalayas.

- An American scientific expedition finally established a station on Everest summit bedrock in 1999.
- The height of Everest was measured at 29,035 feet.

VI. Further observations will be made every year to determine the growth and movement of the Himalayas and the plates beneath them.

- Mt. Everest still continues to grow from 3 to 5 mm per year and is moving northeast at 27 mm per year.

**Script** .....

**CD 4**

Determining the exact height of Everest is not easy. In the middle of the 19th century, the mountain's height was measured at 29,002 feet by surveyors from India. This measurement was accepted for over a hundred years until a new survey was done. From 1952 to 54, an Indian survey team led by B. L. Gulatee took measurements from a distance  
 5 of 30 miles from the summit, as opposed to the 100 miles of the previous survey, and found the summit elevation to be 29,028 feet, a figure used until a few years ago. Measurements were taken in the winter, after much of the snow of summer had been blown off the

mountain top by the powerful winter winds, thus reducing inaccuracy caused by the snow packed on the summit.

10 While the measurement made by Gulatee's team in the early 50s is close enough to satisfy most people, scientists studying geological changes hope for more precision. It took Everest 50 million years to reach its magnificent height. Geologists hope for measurements that can detect movement within their own lifetimes.

Dr. Bilham and Bradford Washburn of the Museum of Science in Boston started  
15 working together in the late 80s to carry out precise observations related to earthquakes that hit Nepal and northern India. From only 18 miles away, Washburn made laser observations of prisms that were carried to and placed on the summit of Everest. In September 1992 an Italian climbing team set up a Global Positioning System, or GPS, receiver and took readings at the highest elevation in the world. These high-tech laser and  
20 GPS readings almost exactly agreed with Gulatee's measurement of 1954 that Everest's elevation was 29,028 feet or 8,828 meters.

But, according to Washburn, even these high-tech measurements are made inaccurate by the snow. No matter how carefully they are done, they don't yield accuracy within a centimeter, which is what is needed to find the rate at which Everest is rising. To gather  
25 more accurate data, Washburn and Bilham decided to set up two GPS stations high in Everest bedrock. One was successfully installed near one of the base camps on the south side in 1995. Another needed to be installed only 100 yards from Everest's snow summit, in an area almost always free of snow from October to the end of April because of the 100-mile-an-hour winds. Poor weather conditions and a series of fatal climbing accidents on  
30 Everest, however, delayed the accomplishment of the mission.

Bilham and his students traveled around the Himalayas to establish a GPS receiver network of 31 stations from India to Tibet. With two sets of observations by Washburn's teams from these sites in 1995 and 1997, the only missing link in this extraordinary GPS

web was a station on Everest summit bedrock. Finally, on May 5, 1999, a team of climbers  
35 under Bilham's instructions reached the summit and made precise measurements for fifty  
minutes. After a half year of data analysis, a new measurement of Everest's height was  
determined — 29,035 feet, or 8,850 meters.

The scientists plan to make further observations at all stations every year to determine  
the growth of the Himalayas and the movement of the plates beneath these giants.  
40 According to Bilham, Mt. Everest still continues to grow from 3 to 5 mm per year and is  
moving toward the northeast at 27 mm per year. [560 words]

全訳

A.

エベレストのたいへんな高度は、約5千万年前にインド亜大陸とアジアが衝突した結果で  
きたものである。2台の列車が正面衝突するように、陸の塊の端どうしがぶつかったときに  
つぶれ曲がり、その結果ヒマラヤが形成された。アジアと衝突したときにインドの北へ向  
かっての移動はかなりゆっくりになったとはいえ、その動きが止んだわけではない。インド  
はより大きなアジアの陸のプレートの下に滑り込みつづけている。

インドとアジアがぶつかる以前、2つはテチス海によって分かたれていた。この海はとっ  
くの昔に消滅したが、この古代の海の底は部分的にチベット南部で今も見られる。科学者ら  
は、ヒマラヤ山脈は山脈の形成過程とそれに関連する地震活動を研究するのに最も適した場  
所のひとつであると考えている。地球物理学者の Bilham 博士は、ネパールに地震活動を起  
こす過程のさらなる解明のために調査を実施している。20世紀中、ヒマラヤ山脈では、マ  
グニチュード8以上の大地震が4回起きた。科学者らは、遠くない将来また大きな地震がき  
て多数の人々の生命が危険にさらされるであろうと予想している。

エベレスト山は29,035フィートで5マイルの高さ——ほぼジェット機の巡航高度である。  
今でも毎年3から5ミリずつ高くなっていると考えられている。これが本当だとすると、登  
山隊が新たに頂上に達するたび、彼らは新記録を樹立していることになる。

B.

エベレストの正確な高度を割り出すのは容易なことではない。19世紀半ば、この山の標  
高はインドの測量士によって29,002フィートと測定された。この測量値は、新たに調査が  
実施されるまで100年以上も受け入れられていた。1952年から54年まで、B. L. Gulatee 率  
いるインドの調査チームが、前回の調査が頂上から100マイルからの距離であったのに対し、  
頂上から30マイルの距離から測量を行なった。それにより、頂上の高さは29,028フィート  
とされ、この数字は数年前まで使われていた。夏の雪の多くが強力な冬風で頂上から吹き飛  
ばされた後の冬に、測量は行なわれたため、頂上に積もった雪によって生じる不正確さを減  
じることができた。

50年代初めに Gulatee のチームが行なった測量は、大半の人々を納得させるには十分実

際に近いものであったが、地形の変化を研究する科学者らは、いっそうの正確さを望んだ。エベレストがその堂々たる高度に達するまでには5千万年を要した。地質学者らは、自分たちが生きているうちに、動きを捉えられるような測量を待ち望んだのである。

ボストン科学博物館の Bilham 博士と Bradford Washburn は、ネパールとインド北部を襲う地震についての精密な観察を行なおうと、80年代末から一緒に仕事をするようになった。Washburn はエベレストの頂上に運ばれ、そこに置かれた角柱をわずか18マイル離れたところからレーザーで観察した。1992年9月、イタリアのある登山隊が世界で一番高い地点に全地球位置測位システム (GPS) のレーザーを設置し、その読み取りを行なった。これらのハイテクレーザーと GPS の読み取りは、エベレストは29,028 フィート、つまり8,828メートルであるとの1954年のGulateeによる測量結果とほとんどぴたり一致した。

しかし、Washburn によると、これらのハイテク計測機器をもってしても、雪によって誤差が生じてしまう。測量がどんなに注意深く行なわれても、エベレストが高くなっている速度を知るのに必要な誤差1センチ以内の正確さは出せない。より正確なデータを収集するため、Washburn と Bilham は、エベレストの岩盤にGPSのステーションを2台置くことにした。ひとつは1995年に南斜面のベースキャンプ近くにうまく設置できた。もうひとつは、風速100マイル時の風のため10月から4月の間はほぼ一定して雪のない部分、エベレストの雪の頂上からわずか100ヤードのところに取り付ける必要があった。天候状態の悪さとエベレストでの登山の死亡事故が続き、この任務の達成は遅れた。

Bilham と彼の学生たちはヒマラヤ山脈のまわりを旅して回り、インドからチベットまで31のステーションによるGPSレーザーネットワークを作った。1995年と1997年にこれらの場所からWashburn チームが2回の観測を行なったが、この見事なGPSの網でつながらなかった唯一の場所がエベレストの頂上の岩盤上のステーションだった。1999年5月5日、ついに、Bilham の指示を受けた登山家チームが頂上に達し、50分にわたり精密な観測を行なった。半年かけてデータ分析をした後、エベレストの標高の新たな測量結果は、29,035 フィート、8,850メートルとされた。

科学者らはこれらの全ステーションで毎年さらに観察を行っていく予定で、ヒマラヤ山脈の上昇とこの巨人の下にあるプレートの動きを突き止めるつもりである。Bilham によれば、エベレスト山は、毎年年間3から5ミリずつ高くなり、北東方面に27ミリずつ動き続けている。

## 【5】

### ポイント

冠詞の有無やその用法に関しては昔から日本人の苦手分野と言われてきた。これを克服するには、基本的な用法をしっかりと覚えた上で各論に入っていく他はない。ここでは基本的な用法を確認しよう。

### 解答・解説

(1) to school → to the school

「ノアの父は彼の問題について担任と相談するために学校に行った。」

一般に go to school が無冠詞なのは‘建物としての学校’ではなく、勉強するためとい

う‘本来の目的・機能を持った学校’だからである。本問は、「教師との話をするという目的で‘その学校という建物’に行った」という状況なので the を入れる。

- (2) in a danger → in danger, friend → the [his] friend,  
in car → in a car [by car]

「ボーンは自分達が危険にさらされていると感じたため、その友人と車で逃走した。」

- be in danger (of ~) 「(~という) 危険な状況で」

Ex. This animal is in danger of extinction. (この動物は絶滅の危機に瀕している。)

- friend は普通名詞であるから冠詞が必要。

- ‘交通手段’を表す際に前置詞 by を用いる場合, by car, by train, by air などと無冠詞が原則であるが(例外は by the 12:10 train など), by 以外の場合には, in a car, on [in] a train, in [on] a plane などと冠詞をつける。

- (3) beauty → a beauty, at the first glance → at first glance

「私は美人と出会った。一目見て彼女に釘付けになった。」

beauty 単独では抽象名詞「美しさ」となるが、特定して「その美しさ」とか「美しい人」の意味では冠詞をつける。at first glance (一目見て) は決まり文句であるから覚えておく。

- (4) a first → the first, a President → President, United → the United

「バラク・オバマ氏は合衆国大統領に選ばれた最初のアフリカ系アメリカ人だ。」

一人の人だけが占める‘特定の地位’や‘身分’を表す語が補語になる時には、定冠詞をつけないことが多い。特に目的格補語の場合にはほとんど the をつけないとされる。なお、アメリカ合衆国は the United States (of America) である。このように、普通名詞を含む固有名詞には the をつける。 e.g. the United Kingdom

また、複数形の固有名詞にも the をつける。 e.g. the Netherlands

- (5) in charge → in the charge

「その赤ちゃんはその看護師が担当している。」

in charge of ~ (～を担当して) と, in the charge of ~ (～が担当して) の区別は重要である。

- (6) in so impressive manner → in such an impressive manner [in so impressive a manner]

「彼はあまりに印象深く物語を読んだため、皆感動した。」

‘such + a + 形容詞 + 名詞 = so + 形容詞 + a + 名詞’となる。

Ex. She is such a sensitive girl that she often cries.

= She is so sensitive a girl that she often cries.

(彼女はよく泣いてしまうほど感受性に富んでいる。)

- (7) An → A

「大学教育は望む者全てに利用できるべきだ。」

university の発音は [ju:] で始まるため、不定冠詞は An ではなく A である。

- (8) by my sleeve → by the sleeve

「彼は私の袖をつかんで、私を行かせてくれなかった。」

‘動詞 + 人 + 前置詞 + the + 場所’という構文がある (【7】 参照のこと)。

Ex. He caught my arm. = He caught me by the arm. (彼は私の腕をつかんだ。)

## 【6】

### ポイント

分析すれば不定冠詞にもさまざまな用法がある。実際すべてを覚える必要はないが、このような分類もできるという事実は知っておこう。

### 解答・解説

(1) e 「文法のいくらかの知識は、英語力の向上の役に立つだろう。」

他に for a while (しばらくの間) など。

(2) b 「日本の大学は、一言で言えば、『地上の楽園』である。」

他には Rome was not built in a day. (ローマは一日にして成らず) など。

(3) a 「湖の向こうにレンガ造りの家が見える。」

この a は、軽い意味しかなく通常は訳出しない。

(4) h 「それを理解するのにアインシュタインのような天才は必要ない。」

他に A Takagi called in your absence. (高木さんとかいう人から不在中に電話がありました。) など。

(5) g 「私は週に3回、自由が丘のジムで鍛えている。」

週に1回なら once a week, 週に2回なら twice a week など。

(6) c 「猫は九生 (なかなか死なない)。」

他に, A bear hibernates. (クマは冬眠する。) など。

(7) d 「ある意味で、人生は夢にしかすぎない。」

この but は only の意味である。

(8) f 「その少年達は同じ年齢です。」

他に Birds of a feather flock together. (同じ羽を持つ鳥は集まる。→類は友を呼ぶ。) など。

## 【7】

### ポイント

‘動詞+人+前置詞+ the +場所’という一連の構文があり、「人の～(場所)の部分で…する」という表現になる。

Ex. He caught my arm. = He caught me by the arm.

上記はどちらも「彼は私の腕をつかんだ。」という意味だが、前者は彼の視点が私の腕に向かっているが、後者は私自身に視点が向かっている、というような若干の違いがあるとも言われている。ここでは、そのパターンについて学習しよう。

### 解答・解説

(1) on the 「イーサンは優しく私の肩を叩いた。」

= Ethan patted my shoulder gently.

(2) by the 「警官はその男の襟首をつかみ、オフィスから放り出した。」

= The policeman took the collar of the man ~.

(3) in the 「私の顔を見てそう言ってください。」 = Look at my face and say that.

- (4) by the 「オリヴィアはオリバーの袖を引っ張って、『待って』と言った。」  
= Olivia grabbed Oliver's sleeve, ~.
- (5) on the 「突然、りんごが頭に落ちてきた。」 = An apple hit my head.
- (6) on the 「私の犬が走ってきて、私の頬を舐めました。」  
= My dog came running and licked my cheek.
- (7) in the 「そのボクサーは対戦相手の目の辺りを殴った。」  
= The boxer hit the opponent's eye.
- (8) to the 「私たちはにわか雨に遭い、ずぶ濡れになった。」  
○ get drenched [wet] to the skin 「ずぶ濡れになる」
- (9) to the 「冷たい風が私の骨身に染みた。」

## 添削課題

【1】

解答例

It's really cold. Would you like my jacket? [8 words]

【2】

解答例

(1) 地球の表面積の3分の2は、水で覆われている。

Two thirds of the earth's surface is covered with water.

(2) 病気でない限り学校を休んではいけない。

On no account must you absent yourself from school unless you are ill.

(3) 私が上京して1ヶ月も経たないうちにその地震が起きた。

I hadn't been in Tokyo even a month before the earthquake happened.

(4) とんでもないミスをしたかもしれない。人が普通嫌がる役目なんて引き受けなければよかったけど、後悔先に立たずだね。

I may have made a ridiculous [horrendous ; gross] mistake. I wish I hadn't undertaken [take on] the role people usually dislike, but it's too late for regrets, right?

(5) 私が大変驚いたことに、つまらない冗談しか言わないだろうと予想するのも無理もないコメディアンが、全員を涙を流して笑わせる冗談を言ったのだ。

Much to my surprise, the comedian, who we [one] might expect would say nothing but a flat joke, actually said one that made us all laugh into tears.

**別解** Much to my surprise, the comedian, who you might expect would tell nothing but boring jokes, told jokes that had everyone in tears of laughter.

**別解** Much to my surprise, while we could be excused for expecting him to tell only lame jokes, the comedian told jokes that had everyone in tears of laughter.